

平成31年度（令和元年度）事業報告書
平成31年4月1日～令和2年3月31日

特定非営利活動法人ECOフューチャーとっとり

1 取組成果

鳥取県地球温暖化防止活動推進センター（以下「センター」）は、鳥取県におけるゼロカーボン社会の実現に向けて、人や組織が出会い、対話し、課題解決をするための機会や仕組みを創ることによって、多様な階層（セグメント）の参加による市民力の創出に寄与し、鳥取県における地球温暖化防止活動の推進に貢献することを目的として事業を展開している。

平成31年度（令和元年度）は、四つの個別事業を展開した。（1）「地球温暖化防止活動推進事業等の業務」は、契約初年度であったが例年通り鳥取県と業務委託契約を締結し、昨年度と同様に地球温暖化防止に係る情報の発信や鳥取県地球温暖化防止活動推進員の養成及び活動支援及び環境について専門的知識を有し環境教育実践経験のある人材を広く県民に紹介するとっとり環境教育・学習アドバイザー制度の運用等を実施した。次に個々に鳥取県と単年度事業委託契約を締結した幼稚園児・保育園児や小学生を対象にした環境教育：（2）「ちびっ子エコスタート事業及びエコ活ノート出前教室」、主に小学5・6年生を対象にした：（3）「夏休み！自由研究再エネ体験ツアー」、加えて地域における地球温暖化防止活動の基盤を形成することを目的とした環境省補助事業：（4）「地域における地球温暖化防止活動促進事業」を実施した。

2 個別事業

- （1）「地球温暖化防止推進事業等の業務」
- （2）「ちびっ子エコスタート事業及びエコ活ノート出前教室」
- （3）「夏休み！自由研究再エネ体験ツアー」
- （4）「地域における地球温暖化防止活動促進事業」

以下、個表の通り

事業名	地球温暖化防止推進事業等の業務
事業内容及び成果等	<p>1 地球温暖化防止推進事業</p> <p>地球温暖化防止は、2015年のパリ協定締結以降世界共通の課題となり、頻発した猛暑日・豪雨による洪水・台風で鉄塔倒壊等異常気象の頻発を身近に感じるが多くなった昨今、異常気象対策の必要性を理解する人々の声が高まりつつある。また、SDGsの広がりと共に、温暖化対策を含めた持続可能性に貢献する施策を採った方が経済的にも有益であると判断し実践する企業も増えてきている。しかしながら、依然として「温暖化対策は経済性や利便性を損なう」と言った意識はなくなり、よって、温暖化対策へのネガティブなイメージの払拭には、今までとは異なる切り口（その工夫も含めた）であったり、新たな社会的仕組みの創設が必要なのも現状である。</p> <p>一方、これまでの事業成果として、自治体や各種団体とのコミュニケーションを通して培ってきた具体的な対策（とっとり健康省エネ住宅団体協議会への鳥取県の参画他）が、政策（とっとり健康省エネ住宅性能基準を策定（施行：令和2年1月28日））に組み込まれるようになってきている。</p> <p>そこで、限られた予算の中で効果的に事業を実施するため、イベントや出前教室等で楽しく体験し学べる場を精選して、これらへの参加者は確実に行動変容が期待できる様に、より質の高いプレゼンテーションやプログラム、コミュニケーションを含め情報提供することに心がけた。また、同時に参加者に対して、健康・子育てと言った身近な事柄に絡めて「温暖化対策は、生活の質を向上させると共に地域の持続可能性と繋がっている」ことが実感出来る様にも留意し伝えた。尚、事業実施に際しては、地球温暖化防止活動推進員の活動支援と連動させながら、市町村の協力を仰ぐ形で連携構築を目指した。また、可能な限り推進員である大学生・子育て世代等も積極的に活用し、温暖化防止の普及啓発が効果的に様々な世代に訴求出来る方法についても模索しながら取り組んだ。</p> <p>(1) 家庭・地域で地球温暖化防止につながるライフスタイルやワークスタイルを県内に広く提案し、実践を促すための普及啓発活動</p> <p>ア 地域での温暖化防止活動の情報共有及び県内外への発信</p> <p>地球温暖化防止に関する情報やこれらの地域の取組を、鳥取県地球温暖化防止活動推進員を含めた県内外から発掘・収集し、ニュースレター、ホームページ、Facebook、新聞紙面等各種メディアを活用しながら、県内に対しては情報の共有を図り県外に対しては情報発信を適宜行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースレター 配信 5回×約350通 ・ホームページ 随時更新 ・フェイスブック 随時更新（投稿数 191回） ・新聞原稿提供 とっとりエコ検定 3回 「とっとりグリーンウェイブ」 9回 ・メディア出演 「ダラズFM」週1回（木曜日 10:30～11:00）

TV番組「金曜SPICE」(1/24放送)

イ 昨今の地球温暖化問題に係る国際情勢などの最新情報や行政施策の情報収集及び収集した情報の県民への周知

地球温暖化防止施策や国際情勢など、昨今の情報を環境関連セミナーは元より環境省・国立環境研究所・公益財団法人地球環境戦略機構・大学他から収集し、メールニュースやホームページ等により適宜情報発信を行った。またイベントを通して、多くの県民に顔の見える距離（Face to Face）できめ細かに情報を提供する機会を持った。

情報収集

・環境関連セミナー等への参加 14回

県民への周知

・メールニュース 配信 7回×約350通
・フェイスブック 投稿数 計42回
・ホームページ 更新随時
・セミナー・講演会等の開催・講師派遣 11件

ウ イベント等での県民への効果的な省エネ対策の提案

イベント等で県民の方々と直接対面し、各年齢層に合った個々のプログラムを通して、展示ブース来訪者ご自身の意識を含めた行動が温暖化対策へと変容される様に努めた（イベント等出展回数：12回）。また、ツールやパネルの貸し出し業務を通じて、体験的に温暖化対策等の必要性を県民自ら伝える機会を提供した（4回）。

(2) 温暖化防止に係る知識とファシリテーション技術を持ち、地域における温暖化防止活動をリードする県地球温暖化防止活動推進員（以下「推進員」という。）の育成

推進員養成研修は、2日間開催し最初の第1日目を必修講座、2日目（参加者が自由に日程設定）を選択講座とした。

必修講座の内容は、地球温暖化の科学的知見と最新情報、更に地球温暖化防止に関わる地域の実例と環境教育活動の実際を、同じ問題意識を共有した仲間づくりを通して体験できるプログラムをそれぞれの会場毎に展開した。また、選択講座の内容は、タイトルを「地域や企業、家庭での普及啓発の実践活動」と称し、受講者各自が6項目（講演会・セミナー講師、ソーシャルメディア投稿、エコイベント出展他）から1項目を選択し任意の期間に取り組む事とし、受講者自らが家庭・職場・地域で様々な温暖化防止活動を具体的かつ効果的に展開するOJT型（On The Job Training）プログラムとした。（今年度新任推進員委嘱申込者33名）

ア 推進員養成研修の実施

第10期推進員養成研修として必修講座を3回実施した。

必修講座

・東部会場 9月28日（土）於：県民ふれあい会館（鳥取市扇町）

- ・中部会場 10月2日(水) 於：エキパル倉吉(倉吉市上井)
 - ・西部会場 10月5日(土) 於：西部総合事務所(米子市糺町)
- ※研修時間はいずれも 10:00～16:30

イ 推進員スキルアップ研修の実施

推進員のスキルアップを図るため、スキルアップ研修会（共催シンポジウム・イベント展示を含め）を計5回行った。研修会の企画・実施にあたっては、実際のイベント等でのプログラム作りからイベント当日の実践を通して、推進員が伝える内容（具体的なプログラム提供・最新の知識情報の強化）を深めたり、イベント等のプログラム展開力を高めことができる様に努めた。また、イベント展示では、展示全ての企画から運営を行ったOJT型（On The Job Training）研修や一部新規推進員の選択講座研修を兼ねた取り組みを行った。

ウ 推進員の活動に対する助言及び支援

推進員の活動に対する助言及び支援を図るため、「エコ端会議」と称する推進員の自主的なミーティングの開催を促した。尚、このエコ端会議は、2カ月に1回を目処に（東部・西部会場）開催（計8回開催）。

エ 推進員を活用し、市町村と連携したエネ活（家庭の省エネ・再エネ導入）の促進

様々なチャンネルを通して県内各市町村との連携を模索しながら、推進員を活用して様々なエコ活に関する相談を含め住民の方々への温暖化防止普及啓発活動の促進に努めた（計4回実施）。

オ 市町村との連携(合同ワークショップの開催)

県内各市町村と連携して研修会・学習会・ワークショップ等を琴浦町・八頭町・北栄町で開催（3回）した。

カ 新規推進員の活動のきっかけづくり(情報交換会の開催)

新規推進員の活動のきっかけや情報交換の場を鳥取市・米子市・倉吉市で提供した。

2 とっとり環境教育・学習アドバイザー制度運用事業

環境について専門的知識を有する人材を広く県民に紹介することにより、体験を重視した環境教育を支援し、実践的、主体的な環境学習の促進を図る当制度の運用を以下のように実施した。

(1) アドバイザー制度のPR業務

鳥取県地球温暖化防止活動推進センターのホームページを刷新し、とっとり環境教育・学習アドバイザー（以下、アドバイザー）制度が、ホームページTOPからアドバイザー制度説明ページに移れ、簡単にアドバイザー制度が理解出来るデザインとした。また、推進員養成研修（とっとりエコサポーターズ養成講座）に於いて、東部会場（令和元年9月28日(土)）・中部会場（令和元年10月2日(水)）・西部会場（令和元年

10月5日(土) それぞれの研修にてとっとりエコサポーターズ制度説明のみならずアドバイザー制度説明も行った。

(2) アドバイザーの人材発掘

様々な機会を通じてアドバイザーの発掘を行い、6名の新規アドバイザー登録申請を行った。

(3) アドバイザーと環境学習主催者との連絡調整業務

環境学習の主催者側からアドバイザーの紹介依頼を受けた場合は、主催者側が予定している環境学習内容に合致していると思われるアドバイザーの紹介を行った。同時に環境学習を企画する主催者団体・機関に対しては、学習内容・コンテンツ・ツールを含めた様々な提案・助言を行った。尚、環境学習に関するアドバイザーとの調整(内容・日程等)を行った上で主催者側にアドバイザーを紹介し、スムーズかつ学習効果の高い環境学習が開催出来る様に連絡調整を行った(アドバイザー紹介及び相談件数:6件)。

(4) アドバイザーの活動状況把握業務

前年度期間中(平成30年4月1日～平成31年3月31日)の活動内容に関し、各アドバイザーから報告されたものについては、広くその内容を紹介すべくホームページに掲載した。

尚、本アドバイザーの活動概要については、令和元年6月30日付にて鳥取県生活環境部環境立県推進課に報告した。

(5) アドバイザーの資質向上研修業務

環境学習会を実施するに当たって必要とする知識とプレゼンテーション能力を身に付けるために研修会を企画・開催(2回)した。更に資質向上を目的とした講演会を公立鳥取環境大学サステナビリティ研究所と共催した。尚、本研修会・講演会は、参加をアドバイザーに限定したものではなく、推進員の方々にも参加して頂いた。

<資質向上研修①>

全国の学童保育の現場で行われている環境教育の先進事例をもとに、小学生への気候変動教育プログラムの開発と学童保育・子ども達の集まる場他ですぐ使えるSDGsプログラムツール「環境マークを集めよう!」「こよみニストになろう!」の活用方法を習得する研修を開催した。

※講座内容は、一般社団法人地球温暖化防止全国ネットの学童プロジェクトで開発されたものである。

【日時】令和元年6月29日(土) 13:00～16:30

【会場】はわいアロハホール 研修室(会場)

【参加者】○とっとり環境教育・学習アドバイザー 12名
○鳥取県地球温暖化防止活動推進員 7名

【講師】山本ルリコ(NPO法人ECOフューチャーとっとり 副理事長)

<資質向上研修②>

イギリスの地理学の実践の中で開発されたシステム思考が身につく学

	<p>習方法「ミステリー」をSDGsへの環境教育:持続可能な社会のための環境教育ESDプログラムへ展開導入されている立教大学ESD研究所高橋敬子先生をお迎えし、地理学ではなく気候変動と言うテーマに置き換えてシステム思考学習を体験した。更に具体的な環境学習への活用方法を議論した。</p> <p>※本来であればエキパル倉吉にて開催予定であったが、急遽新型コロナウイルス感染拡大防止のため人数を絞りスタッフ中心での縮小開催とした。</p> <p>【日時】令和2年3月28日(土) 13:00~16:30</p> <p>【会場】公立鳥取環境大学内 鳥取県地球温暖化防止活動推進センターミーティングコーナー</p> <p>【参加者】○とっとり環境教育・学習アドバイザー 1名 ○鳥取県地球温暖化防止活動推進員 1名 ○大学生 5名</p> <p>【講師】立教大学ESD研究所 高橋敬子先生 鳥取県立西高等学校 教諭 中村秀司氏にも急遽加わって頂いた。</p> <p>〈資質向上講演会〉</p> <p>資質向上を目的とした講演会を公立鳥取環境大学サステナビリティ研究所と共催した。アドバイザー及び鳥取県地球温暖化防止推進員には、本講演会の周知をホームページやニュースメールを通してアナウンスした。</p> <p>【日時】令和元年10月21日(月) 14:00-16:10</p> <p>【会場】公立鳥取環境大学 講義棟100 講義室</p> <p>【講演】2019年度公立鳥取環境大学 SDGs シンポジウム サステナビリティ研究所シンポジウム [共催]</p> <p>講演①「令和元年 環境白書 ~持続可能な未来のための地域循環共生圏~」 講師 環境省大倉官房環境計画課 課長補佐 木村 真一氏</p> <p>講演②「紙おむつの燃料化への取組」 講師 鳥取県伯耆町役場地域整備課 井本 達彦氏</p>
--	--

事業名	ちびっ子エコスタート事業及びエコ活ノート出前教室実施業務
事業内容及び成果等	<p>1 ちびっ子エコスタート事業</p> <p>幼児期から環境を大切に育むため、幼稚園、保育園及び認定子ども園(以下「幼稚園等」という。)の園児、職員等を対象とした環境学習会に講師を派遣することにより、園児、職員及び保護者へのエコ育(幼稚園等や家庭での生活をエコの視点で見直し、人間も自然の一部であることに気付き、しっかりとした生活リズムを身に付けること)の啓発を図った。</p> <p>(1) 園長等向け環境学習研修会 ○東部地区 津ノ井保育園(令和2年1月22日)</p> <p>参加者 3名 その他 津ノ井保育園園児30名・保護者40名</p>

職員 10名

○西部地区 彦名保育園 (令和2年3月4日)

参加申込者 4名

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止。

尚、園長等向け環境学習研修会の開催に関して、各市町村担当者(19市町村)へ事業広報依頼、更に県内各幼稚園・保育園・認定こども園(207園)へ事業案内を行った。また、研修コンテンツ:ちびエコシアターの作成と動画作成を行った。

(2) 園児向け環境学習研修会

幼児が環境を大切にする気持ちを育むには、周りの大人の理解による率先行動が不可欠である。そこで、今年度も園全体でエコ育を十分に理解したうえで取組めるよう打ち合わせを重視した。また、園と家庭が連携して取り組めるよう、保護者研修の実施に向け助言を行った。園児に対しては、博士や動物たちが出てくる劇を通して楽しくエコを身に付けたり、大きな地球にふれる印象的な体験をしたりして、環境を大切にする気持ちを育てるよう配慮した。

<ちびっこエコスタート(環境学習会)実施概要>

・実施園 6園(参加者総数 617名)

実施園内訳 米子ナーサリースクール、大和保育園、美哉幼稚園、めぐみ保育園、いづみ保育園、津ノ井保育園

参加者内訳 園児 351名、保護者 150名、職員 116名

2 エコ活ノート出前教室実施業務

家庭で取り組んでほしい環境に配慮した活動をまとめたエコ活ノートを教材にして、小学校に講師を派遣して出前教室を実施することにより、小学生及びその保護者へのエコ活(資源を大切に環境に配慮した生活を行うこと)の啓発を図った。

実施にあたっては、担任との打ち合わせを行い、各学級の実態に合わせた指導を行うことで、エコ活により意欲的に取組めるよう配慮した。

<エコ活出前教室実施小学校>

・実施小学校 3校(参加児童数 136名)

実施小学校内訳

日吉津村立日吉津小学校 (5年生・30名)

鳥取市立鹿野学園 (5年生・22名)

米子市立福生東小学校 (4年生 + 特別援学級・84名)

尚、放課後児童クラブを対象にした環境学習ワークショップ(北栄町人権文化センター)を行い、自治体と連携した活動のあり方を検討した。

事業名	「夏休み！自由研究再エネ体験ツアー」実施業務
事業内容及び成果等	<p>鳥取県最大の資源である豊かな自然が生み出す多種多様な再生可能エネルギーについて、未来を担う子ども達が体験、学習する場を設け、環境意識の醸成や環境活動の推進を図った。</p> <p>1 概要</p> <p>小学生（5・6年生）を対象に、再生可能エネルギーをテーマとした夏休みの自由研究を作成する体験型講座を4コース（中部1コース、東部1コース、西部2コース）開催した。</p> <p>講座内容は、下記順で行った。</p> <p>①環境教室（ストップ温暖化教室）、</p> <p>②自然エネルギークイズ（中部・西部のみ施設へ移動中に実施）</p> <p>③施設見学（東部：自然エネルギー施設説明）、</p> <p>④ソーラー行灯工作、</p> <p>⑤自由研究まとめ</p> <p>尚、各コース実施後、その様子を鳥取県地球温暖化防止活動推進センターホームページ・Facebookに掲載した。</p> <p>2 各コースの概要</p> <p>予め見学する施設の理解度を得るために、ストップ！温暖化教室にて自然エネルギーの種類や特徴・発電の仕組みを学ぶと同時に、地球温暖化の今と未来、原因・仕組みも学んでから施設見学を行った。</p> <p>(1) 中部コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：令和元年8月22日（木）9:00～17:00 ・講座場所：鳥取県立倉吉体育文化会館 ・見学施設：高千穂太陽光発電所（株式会社エナテクス）、北栄ソーラーファーム（株式会社エナテクス）、北条砂丘風力発電所（北栄町） ・参加人数：計47名（小学生29名、スタッフ16名、県職員2名） <p>(2) 東部コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：令和元年8月19日（月）10:00～14:00 ・講座場所：公立鳥取環境大学 ・見学施設：台風接近に伴い日程変更ため施設の見学は中止。 ・参加人数：計37名（小学生25名、スタッフ10名、高校生2名） <p>(3) 西部Aコース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：令和元年8月21日（水）9:00～17:00 ・講座場所：鳥取県西部総合事務所 ・見学施設：伯耆町メガソーラー発電所（株式会社ミヨシ産業）、新幡郷水力発電所（鳥取県企業局） ・参加人数：計46名（小学生32名、スタッフ13名、県職員1名） <p>(4) 西部Bコース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：令和元年8月22日（木）9:00～17:00 ・講座場所：米子市クリーンセンター ・見学施設：米子市クリーンセンター、米子彦名エナトラパーク、彦名調整池水上太陽光発電所

	<p>・参加人数：計 46 名（小学生 32 名、スタッフ 13 名、県職員 1 名） ※参加者数合計：小学生 118 名（申込者 204 名の内 5・6 年生を優先し、抽選の上参加者 118 名を決定した）</p> <p>3 参加者アンケート調査</p> <p>「夏休み！自由研究再エネ体験ツアー」が、参加者の環境意識の醸成や環境活動の推進に繋がったかどうかを確認するための Web アンケート調査を実施した。</p> <p>（送付数 115 件 回答数 65 [中部 20、東部 18、西部 A 10、西部 B 17] 回答率 57 %）</p> <p>「ツアーで、自然エネルギーのことが分かりましたか？」という質問に、100%が「はい」と回答した。全ての参加者が自然エネルギーへの理解を深めることができたことから、再生可能エネルギー推進への環境意識醸成へ繋がったと考える。</p>
--	---

事業名	地域における地球温暖化防止活動促進事業
事業内容及び成果等	<p>地域におけるエネルギー起源二酸化炭素排出抑制を図るためには、地域における日常生活に関する温室効果ガスの排出の実態把握及び普及啓発に関して、地球温暖化防止活動推進員等と連携した調査の実施、並びにこれらの情報収集提供・普及啓発・広報活動が必要となる。このことから地域の関係主体との効果的な連携、連絡調整等を通じて、当センター事業の一層の円滑化と促進を図り、地域における活動の基盤を形成することによって低炭素社会の構築を目指すことを目的として、次の事業を行った。</p> <p>1 地球温暖化対策等（COOL CHOICE 含む）についての広報・啓発活動</p> <p>1-1 断熱ワークリーダーの育成支援（省エネリフォームの普及）</p> <p>県内 3 か所で断熱リーダー養成講座を開催し、断熱ワークリーダー育成を計 9 名（内訳：中部 2 名、西部 3 名、東部 4 名）育成した。</p> <p>①中部開催：北栄町共催 令和元年 12 月 14 日（土）</p> <p>県下全体からリーダー候補として 20 名参加（推進員含む）。公営移住者用お試し住宅にて居間の天井・窓・床の断熱化で実習した。</p> <p>②西部開催：米子市後援 令和 2 年 1 月 18 日（火）</p> <p>参加 11 名。実習としては、古民家の窓をポリカーボネートで 2 重窓にした。</p> <p>③東部開催：智頭町後援 令和 2 年 2 月 9 日（日）</p> <p>県下全体（特に智頭町周辺）から参加 23 名（推進員含む）。智頭町に移住者した方が経営のカフェにて薪ストーブ式床暖房を設置して実習した。</p> <p>1-2 子どもエコドライブ自動車学校</p> <p>30 代～40 代のファミリー層を対象とし、ゲーム感覚で楽しめるエコドライブシミュレーターを活用して、「子どもエコドライブ自動車学校」を</p>

実施し、エコドライブの効果について親子で実践的に学んでもらった。あるいは、ご使用の自家用車の燃費を書いたシールと引き換えにエコドライブおみくじを実施し、燃費の把握と簡単なエコドライブの方法を学んでもらった。

- ・令和元年6月2日：あおいち（鳥取市・青谷地区振興祭）
- ・令和元年6月2日：はあつ（米子市・特別福祉法人養和会合同施設会）
- ・令和元年6月22日：キャンドルナイトイン境港（境港市・海とくらしの史料館）
- ・令和元年7月6日：地元サッカーチーム・ガイナレエコドライブイベント（鳥取市・とりぎんバードスタジアム駐車場）
- ・令和元年7月26日：太平線マルシェ（鳥取市・太平線通りマルシェ）
- ・令和元年10月22日：ecoライフ体感フェア（鳥取市・鳥取すいそ学びうむ）
- ・令和元年12月7日（土）：クリスマスレクチャー（鳥取市・公立鳥取環境大学）

2 地域地球温暖化防止活動推進員、活動団体等の支援（中国四国ブロック合同推進員研修会）

中国四国ブロックの推進員を対象とした合同研修会（宿泊）を開催し、交流やワークを通じて互いの活動や先進事例を共有するなど、スキルアップおよびモチベーションの維持と活動の活性化を図った。

- ・実施時期：令和元年9月5日（木）13:00～6日（金）9月6日12:30
- ・実施場所：松江テルサ 1階 テルサホール（島根県松江市）
- ・実施対象：中国四国ブロックで活動する推進員
- ・参加人数：鳥取県から3名＋スタッフ3名
- ・研修テーマ：掘り起こせ！未来へつづく地域のチカラ～持続可能な地域づくりにむけて～

合同研修会では、地域事例の掘り起こし、それを知り、学び、伝え、広げていく為に、インタビューのやり方、記事の書き方を学び、推進員間でインタビューを行い、個々のプロフィール記事を作成することを体験した。

3 日常生活に関する温室効果ガス排出抑制措置等についての相談対応、助言（COOLCHOICE ファイナンシャルプランナー）

地域の工務店と連携したゼロエネルギー住宅（以下 ZEH）等への宿泊体験を含めた「クールチョイスファイナンシャルプランナー（以下 CCFP）養成セミナー」を開催し、実際にプランナーとして活躍して頂くセミナー等開催支援をした。

①あったか住宅セミナー（プランナー養成セミナー）

- ・令和元年11月25日：断熱住宅体験（安来市）
- ・令和元年12月22日：COOLCHOICE ライフプランセミナー（八頭郡八頭町・隼ラボ）開催参加者22名

- ②サスティナママ「知ることから始めよう」(プランナー活躍の場①)
 - ・令和2年1月20日-21日:品川断熱体感ショールーム&富山パッシブタウン視察
 - ・令和2年2月12日:まちなか拠点 in とっとり「サスティナママ〜できることから始めよう」開催参加者12名
- ③高校生省エネ住宅研究発表会(プランナー活躍の場②)
 - ・令和2年1月26日:「とっとりフリースタイル〜鳥取県独自の省エネ住宅基準
 - ・令和2年2月15日:鳥取県立鳥取西高生エコ端会議「省エネ住宅研究発表会」開催参加者15名(録画配信)

4 地域の温室効果ガス排出に関する実態調査(調査協力含む)、情報収集・分析、成果の発信(一般住宅の設備導入・エネルギー使用実態調査)

他県と比べたエネルギー使用実態によるCO₂削減ポテンシャルを知り、具体的な対策を提案できる資料を作成するとともに、地域課題としての住宅の無断熱やそれに伴うCO₂排出量の多さについて、鳥取県地域の情報を定量的に分析し、課題解決に向けてステークホルダー間で共有することを目的とした。

- ・実施時期:令和2年2月から令和2年3月の一か月間
 - ・アンケート回答者数:158世帯
- ・調査結果:鳥取県令和2年1月の世帯当たりのCO₂排出量(電気、ガス、灯油の合計)は、0.384トンCO₂となった。その内訳は、電気の使用に伴う排出が82.5%、都市ガスの使用に伴う排出が1.8%、LPガスの使用に伴う排出が5.1%、灯油の使用に伴う排出が10.6%を占めている。この結果を平成30年度の全国の年間エネルギー種別CO₂排出構成比と比較すると、鳥取県は電気の使用に伴うCO₂排出割合が高く、都市ガスの使用に伴う排出が極めて少ないことが判った。

5 指定団体等への施策の協力(気候メニュー)

鳥取県民に、食の地産地消と気候変動対策の関連性について理解促進を図り、飲食店及び農業生産者へのアプローチを通して、これまで訴求できていなかった層に対してのこのような切り口を変えた地球温暖化防止活動の普及を目指した。

- ・県内市町村へ気候レシピに関わるアンケートによる調査
 - アンケート内容:地域で推薦したい料理、食材、農畜水産物、伝統食、推薦したい料理家、食堂、カフェ(特に推薦するメニューなど)
- ・気候メニューの定義策定会議の開催
- ・気候メニュー意見交換会(発表会)
 - 日時:令和2年2月28日15:00~17:00
 - 会場:moco satellite studio(株)ヤマタホームクローバー住工房倉吉店
 - 事前に気候メニューに合致する食を提供している3店舗(東部: Bento、中部地区: Tekara Café、西部: 日々の糧)にメニュー開発を依頼すると同時に気候メニュー意見交換会(発表会)当日の準備を合同で行った。

・気候メニューを味わえるキャンペーン

開催期間：令和2年2月1日～6月30日（火）まで

6 附帯する事業（連絡調整会議）

鳥取県地球温暖化防止活動推進センター事業について、関係各所との連絡調整を行うとともに、SDGs に関する情報交換及び温暖化対策の質の向上を目指す当該会議を開催運営した。

①中西部地域4町（琴浦町・北栄町・三朝町・大山町）合同情報交換会（琴浦町・令和元年6月26日）

②SDGs 未来都市に登録となった「日南町」、「智頭町」との意見交換会：ESD 学び合いフォーラム（山口県宇部市・令和元年12月23日）

財 産 目 録

NPO法人ECOフューチャーとっとり
全事業所

[税込] (単位: 円)
令和 2年 3月31日 現在

【流動資産】

(現金・預金)

現 金	555,855		
普通 預金	195,237		
鳥取銀行	(112,640)		
山陰合同銀行	(82,597)		
現金・預金 計	751,092		

流動資産合計

751,092

資産の部 合計

751,092

《負債の部》

【流動負債】

短期借入金

0

未 払 金

690,900

流動負債 計

690,900

負債の部 合計

690,900

正味財産

60,192

貸借対照表

NPO法人ECOフューチャーとっとり
全事業所

[税込] (単位: 円)
令和 2年 3月31日 現在

		《資産の部》	
【流動資産】			
(現金・預金)			
現金	555,855		
普通預金	195,237		
現金・預金計	<u>751,092</u>		
流動資産合計		<u>751,092</u>	
資産の部 合計			<u><u>751,092</u></u>
《負債の部》			
【流動負債】			
短期借入金			
未払金	690,900		
流動負債計		<u>690,900</u>	
負債の部 合計			<u>690,900</u>
《正味財産の部》			
【正味財産】			
前期繰越正味財産額	△ 210,422		
当期正味財産増減額	270,614		
正味財産計		<u>60,192</u>	
正味財産の部 合計			<u>60,192</u>
負債・正味財産合計			<u><u>751,092</u></u>

活動計算書

【税込】(単位:円)

NPO法人ECOフューチャーとっとり

自平成31年4月1日 至令和2年3月31日

【経常収益】		
【受取会費】		
正会員受取会費	31,000	
賛助会員受取会費	6,000	37,000
【受取者付金】		
受取者付金		503,738
【受取助成金等】		
受取補助金		4,555,000
【事業収益】		
受託事業収益		11,924,781
【その他収益】		
雑収益		0
受取利息		26
経常収益計		17,020,545
【経常費用】		
【事業費】		
(人件費)		
給料 手当(事業)	4,887,757	
通 勤 費(事業)	401,490	
法定福利費(事業)	721,196	
人件費計	6,010,443	
(その他経費)		
業務委託費(事業)	30,000	
諸 謝 金(事業)	344,700	
臨時雇賃金(事業)	2,790,435	
印刷製本費(事業)	1,197,753	
会 議 費(事業)	17,322	
旅費交通費(事業)	1,526,139	
車両燃料費(事業)	0	
通信運搬費(事業)	216,106	
消耗品 費(事業)	400,359	
貸 借 料(事業)	369,056	
保 険 料(事業)	17,291	
研 修 費(事業)	0	
諸 会 費(事業)	112,500	
役 務 費(事業)	1,633,400	
修 繕 費(事業)	0	
新聞図書費(事業)	17,492	
支払手数料(事業)	432	
雑 費(事業)	3,618	
その他経費計	8,676,603	
事業費計		14,687,046
【管理費】		
(人件費)		
給料 手当	0	
通 勤 費	0	
法定福利費	0	
人件費計	0	
(その他経費)		
業務委託費	0	
諸 謝 金	252,162	
臨時雇賃金	0	
印刷製本費	9,760	
会 議 費	6,498	
旅費交通費	15,624	
車両燃料費	0	
通信運搬費	108,228	
消耗品 費	81,331	
貸 借 料	745,474	
保 険 料	0	
研 修 費	0	
諸 会 費	40,000	
役 務 費	0	
修 繕 費	22,842	
新聞図書費	1,980	
支払手数料	41,088	
雑 費	26,998	
租税 公課	629,900	
他会計繰出金	0	
その他経費計	1,981,885	
管理費計		1,981,885
経常費用計		16,668,931
当期経常増減額		351,614
【経常外収益】		
経常外収益計		0
【経常外費用】		
返納金		0
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		351,614
法人税、住民税及び事業税		81,000
当期正味財産増減額		270,614
前期繰越正味財産額		△ 210,422
次期繰越正味財産額		60,192

財務諸表の注記

NPO法人ECOフューチャーとっとり

令和 2年 3月31日 現在

【重要な会計方針】

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

(1). 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、本則課税方式によっています。

【会計方針の変更】

変更はありません。

【事業費の内訳】

事業費の区分は以下のとおりです。

(1/2)

[税込] (単位: 円)

科目	地球温暖化 防止推進事業 (県委託事業)	ちびエコ・エコ活ノード 出前教室実施事業 (県委託事業)	自由研究ツアー実施事 業(県委託事業)	地域における地球温暖 化防止活動促進事業 (国補助事業)		一般会計
(人件費)						
給料・役員報酬	2,483,055	563,467	448,120	1,393,110		5
通勤費	248,750	39,025	43,625	70,090		0
法定福利費	324,458	69,551	79,620	247,547		20
人件費計	3,056,263	672,043	571,365	1,710,747	0	25
(その他経費)						
業務委託費	30,000	0	0	0		0
諸謝金	148,400	52,500	15,000	128,800		0
臨時雇賃金	1,544,480	52,725	707,310	479,920		6,000
印刷製本費	464,524	38,707	340,579	353,743		200
会議費	17,322	0	0	0		0
旅費交通費	859,904	77,650	293,345	286,020		9,220
車両燃料費	0	0	0	0		0
通信運搬費	176,564	18,522	16,584	1,886		2,550
消耗品費	182,101	6,242	198,423	7,052		6,541
賃借料	108,758	0	200,860	56,848		2,590
保険料	6,900	0	10,391	0		0
研修費	0	0	0	0		0
諸会費	19,500	0	93,000	0		0
役員費	99,600	0	0	1,533,800		0
修繕費	0	0	0	0		0
新聞図書費	17,492	0	0	0		0
支払手数料	432	0	0	0		0
雑費	0	0	3,618	0		0
その他経費計	3,675,977	246,346	1,879,110	2,848,069	0	27,101
合計	6,732,240	918,389	2,450,475	4,558,816	0	27,126

(2/2)

[税込] (単位: 円)

科目				事業費合計	管理費合計	合計
(人件費)						
給料・役員報酬				4,887,757	0	4,887,757
通勤費				401,490	0	401,490
法定福利費				721,196	0	721,196
人件費計				6,010,443	0	6,010,443
(その他経費)						
業務委託費				30,000	0	30,000
諸謝金				344,700	252,162	596,862
臨時雇賃金				2,790,435	0	2,790,435
印刷製本費				1,197,753	9,760	1,207,513
会議費				17,322	6,498	23,820
旅費交通費				1,526,139	15,624	1,541,763
車両燃料費				0	0	0
通信運搬費				216,106	108,228	324,334
消耗品費				400,359	81,331	481,690
賃借料				369,056	745,474	1,114,530
保険料				17,291	0	17,291
研修費				0	0	0
諸会費				112,500	40,000	152,500
役員費				1,633,400	0	
修繕費				0	22,842	
新聞図書費				17,492	1,980	19,472
支払手数料				432	41,088	41,520
雑費				3,618	26,998	30,616
租税公課					629,900	629,900
他会計繰出金					0	0
その他経費計				8,676,603	1,981,885	10,658,488
合計				14,687,046	1,981,885	16,668,931

(様式例)

前事業年度の年間役員名簿

(特定非営利活動法人の名称)

ECO フューチャーとっとり 平成 31 年度 (令和元年度)

役名	氏名	住所又は居所	就任期間	報酬を受けた期間
理事長	ねもと あきひこ 根本 昌彦		H31 年 4 月 1 日 ~R2 年 3 月 31 日	
副理事長	きぬがわ ますひろ 衣川 益弘		H31 年 4 月 1 日 ~R2 年 3 月 31 日	
副理事長	やまもと るりこ 山本 ルリコ		H31 年 4 月 1 日 ~R2 年 3 月 31 日	H31 年 4 月 1 日 ~R2 年 3 月 31 日
理事	みやざき やすひろ 宮崎 靖大		H31 年 4 月 1 日 ~R2 年 3 月 31 日	
監事	あしかが ひろと 足利 裕人		H31 年 4 月 1 日 ~R2 年 3 月 31 日	

(備考)

- 1 「役名」の欄には、理事、監事の別を記載する。
- 2 「住所又は居所」の欄には、鳥取県特定非営利活動促進法施行条例第3条第1項に掲げる書面によって証された住所又は居所を記載する。
- 3 「就任期間」の欄には、左に記載された役員全員について記載し、「報酬を受けた期間」の欄については、報酬を受けたことがある役員のみについて記載する。

(様式例)

社員のうち10人以上の者の名簿

(特定非営利活動法人の名称)

ECOフューチャーとっとり 平成31年度(令和元年度)

氏 名	住 所 又 は 居 所
根本 昌彦	
衣川 益弘	
山本 ルリコ	
宮崎 靖大	
足利 裕人	
幸本 伊織	
服部 健也	
新家 憲一郎	
松本 俊寛	
牧園 善樹	
市原 晨太郎	
加藤 大雅	
本田 奈々	